

施主にこそ最大のメリットをもたらす

マルダイ(静岡県富士市)は、静岡を中心とする東海・首都圏エリアへ、木材はじめ新建材や住設機器等あらゆる建築資材を供給する建築資材商社。木材卸の老舗企業としても長い歴史を持ち、静岡の住宅建築業界をサポートし続けてきた。そんな同社では2007年からCEDXMの研究・活用に取り組んできた。活動を主導した功刀氏は語る。

「当時始まったばかりのCEDXMの実効性を試すため、試験運用を行うことになったんです。何しろ最初期の取り組みですから、基本的な運用ルール決めから始めなければなりませんでした。当時は意匠側がどんなデータを求めているか分からず、意匠側もプレカット工場がどんなプレカットデータを出せるのか、分からなかった。そこで功刀氏は意匠からプレカット工場に至るデー



タの流れをトレースし、「ここまでのデータが必要／ここからは不要」と精査していったのである。

「要はプログラムなので、ルールさえ決めてしまえばある程度何でもできます。ただ、私たちは構造躯体を加工するためのデータを作るので、特殊な入力も行っており、それがそのまま設計側に行くのは問題でした。そこで実務の中でどうルール化すべきか検証していきました」。半ば手探りで始まったこの検証作業は約半年に及び、この蓄積をベースに同社はその後もCEDXM連携の活用に取り組んでいった。そして、現在ではすでに実務レベルで日常的にこれを活用している。

「とはいえ、CEDXMを使ってデータを流すのは月平均3棟程度。プレカット事業部全体で月250棟前後流しているのですから、まだごく一部に過ぎません。しかし社内の注目は集まっていますよ。CEDXM自体、以前より使いやすくなりましたし」。現在の同社のCEDXM運用は、以下のようなデータの流れが基本である。まず確認用図面として最低限必要となる平・立・矩計・配置図等の図面を工務店からもらう。そして、これを元に功刀氏らがプレカットCADへ建物を入力。工務店とやり取りしながら修正し、最終的に「加工承認」が出たら、チェックの上、加工データに仕上げプレカット工場へ送る。さらにこのプレカットCADデータを、最終データとしてCEDXMファイルに変換し工務店に返すのだ。



株式会社マルダイ

プレカット事業部課長 ● 功刀友輔氏

「工務店はこれをCEDXM対応の意匠CADに載せ変えて、自社の枠等を付けて竣工図として保存するんです。長期優良住宅の住宅履歴情報等の流れを踏まえた、新サービスですね」。このようなCEDXMの活用から生まれるメリットは同社にとって二つある。一つは意匠から初期段階のデータを貰うことで二重入力の手間が省けること。そしてデータの不整合を無くせることだ。

「特に後者は工務店が得るメリットも大きく、最終的には施主にも大きな利益をもたらします。個人の資産として住宅を見た時、不整合のないきちんとした図面が揃っていれば、それだけで大きな付加価値になりますよね。そして維持管理しやすくりフォームしやすいとなれば、メリットはさらにクローズアップされるでしょう」

【株式会社マルダイ】

代表者 / 深澤一元(代表取締役会長) 深澤裕一郎(代表取締役社長) 資本金 / 1,000万円 創業 / 1967年5月
本社 / 静岡県富士市 事業内容 / 木材をはじめとする建築資材、住宅設備、その他の販売、プレカット加工サービス
<http://www.marudai-fuji.co.jp/>